

第1回、第2回運営協議会で出された意見の分類整理一覧

資料

意見の分類	協議会としての意見	参考1（参考人の意見）	参考2（事務局の説明・見解）
施設・設備に関して		<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設のキャパは懸念される</li> <li>○ともだちクラブは1室しかない</li> <li>○5, 6年生はトイレや着替え場所などで配慮が必要では</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○でっかいクラブは施設のキャパは十分</li> <li>○なかよしクラブ、ともだちクラブ施設のキャパに関しては、今後の在籍児童数の推移や5, 6年生の入所数がどの程度になるかによる</li> </ul>
指導員に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5, 6年の発達段階に合った、多様な要求を満たす保育内容を作るため、指導員には専門性が求められる</li> <li>○指導員が安心して働き続けられる身分保障が必要</li> <li>○高学年児童が全力でぶつかれる相手として大人の指導員の存在は大切</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門性の向上のため、指導員には研修の場を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○府の資格研修等、外部研修への参加のほか、統括職員による日々の巡回、指導・助言により、指導員の資質向上を図っている</li> </ul>
保育内容に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>○民生委員をはじめ、高齢者にはさまざまな特技を持つ方もおり、保育に協力できる部分があるかもしれない</li> <li>○おやつ時間の、良かったことや嬉しかったことを報告してみんなで考えるという取り組みはとても良い</li> <li>○一体保育では、チャレンジクラブのようなダイナミックな活動ができるのか</li> <li>○人数規模に適した活動内容についても考えておくべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5, 6年生になると遊びの中身も変わってくる</li> <li>○保護者の意見は「活動内容継続なら5, 6年も利用」が約4割、「活動内容に関係なく利用」が約1割</li> <li>○今の保育内容を基本的に継続しつつ、学年に応じたアレンジを</li> <li>○皆、コマや一輪車の遊びは好きのように思う</li> <li>○管理されるのではなく、自分たち自身で自分たちの活動を作ることが、高学年にとっての充実した活動だと思う</li> </ul>	
年齢区分や児童数に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年一体保育では下の学年の子が喜ぶことが、高学年児童の喜びにもなる</li> <li>○高学年児童も、自分たち自身が楽しめる活動がベースにあって初めて低学年のお世話を楽しめる</li> <li>○5, 6年生と4年生以下で分ける以外に、他市町のように例えば4年生以上と3年生以下で分けるといった議論があってもいい</li> <li>○基本的には全学年一体保育を基本に考えてほしい</li> <li>○他市町の例で、保育集団を分けている場合は設備と人数が大きな基準となっているように思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○異年齢の縦の関係も大事だが、同様に横のつながりも大事</li> <li>○全学年一体保育とした場合、現状4, 3年生が務めるリーダー、サブリーダーの役割は6, 5年生に移行？</li> <li>○クラブによっては5, 6年生はごく少数になるのでは</li> <li>○下の子は、5, 6年生の姿を見て「こんなふうになりたい」と感じるができ、視野の拡大につながる</li> <li>○1人1人性格も異なるので、5, 6年生がどのように下の子にかかわってくれるのか分からない点は懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞き取った先行自治体からは、体格の違い等に起因する事故や怪我の例はないと聞いている</li> </ul>
外部委託の可能性に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託によらずとも、例えば町の指導員が保育内容についてチャレンジクラブに相談し教わることができるような協力の形もあるのでは</li> <li>○現状、町の放課後児童クラブとチャレンジクラブ間で、行事への参画等で一定の協力関係がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チャレンジクラブでは入所基準は設けていない</li> <li>○チャレンジクラブは現状5, 6年生16名（ここ10年以上目立った増減傾向ナシ）で、水金土の週3日開所</li> <li>○チャレンジクラブでは木造2階建ての一軒家を法人で所有し、専用施設としている</li> <li>○チャレンジクラブでの5, 6年生の退所理由で多いのは習い事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町が5, 6年の受入れに際し、外部委託を開始すれば、利用者からは選択肢の拡大となる</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他市の事例で、5, 6年生による低学年児童への暴力があると聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学童保育に求められる3機能は①保育機能、居場所機能、活動拠点機能で、②と③は密接に関連</li> <li>○大山崎小学校の5, 6年生にとっては、放課後に歩いて第二大山崎小学校区のチャレンジクラブに行かずとも、同じ学校敷地内で保育してもらえるのは安心できる</li> <li>○4年生まででやめてしまう人が多い</li> <li>○クラブ間の人数バランスは、エリア区割けの影響が大きい</li> </ul>	

※参考1（参考人の意見）についても、「協議会としての意見」に含めるかどうかのご審議をお願いします。

